

神奈川県の取組について

「循環経済とネットゼロ：ビジネスとくらしの大変革」
—パネルディスカッション 登壇資料—

2023年1月25日（水）
神奈川県環境農政局環境部

- **神奈川県地球温暖化対策計画**
- **かながわ脱炭素ビジョン2050**
- **海岸のプラスチックごみの状況**
- **プラごみ削減に向けた神奈川県の取組**

神奈川県地球温暖化対策計画

(令和4年3月一部改定)

- **中期目標：2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比46%削減**
- **長期目標：2050年脱炭素社会の実現**

- 中期目標の達成に向けて、産業、業務、家庭などの部門別に体系を整理し、再生可能エネルギーの導入促進や省エネ対策などの取組を進めていく。
- 長期的には当面「**かながわ脱炭素ビジョン2050**」により、県民の皆様・企業の皆様・行政各主体の行動変容を促していく

現在、県として、脱炭素化に向けた総合的な対策を検討中
(**中期目標の精査、部門別の削減目標と各主体の役割を整理**)

⇒**令和5年度に予定している計画改定に反映！**

スマートエネルギー計画と一本化し、県の脱炭素施策の全体像を分かりやすく提示

かながわ脱炭素ビジョン2050①

- 脱炭素な将来像や今からできることなどを提示
- 脱炭素はもちろん、**他の社会課題の同時解決**も実現することを目指す！

県民

日々過ごす時間毎に行動を変えていくことより、**ライフスタイルが脱炭素型に転換**する

企業

県民のライフスタイルの変化等を捉えた事業展開により、**事業活動の脱炭素化**が進む

行政

地域の魅力を生かした脱炭素な将来像を参考とした施策展開により、**地域の脱炭素化**が進む

徹底的な省エネを前提とした、**再エネ、電化、DX**がキーワード

- 使うエネルギーを可能な限り「**電化**」し、そのエネルギー源を、化石燃料ではなくクリーンなエネルギーである「**再エネ**」とすることで、温室効果ガスの排出を大幅削減する
- 「**DX**」が進むことで作業等が自動化・効率化され、省資源、省エネに繋がる

かながわ脱炭素ビジョン2050②

■ (例) 家にいる時間 日用品に関わる時間 (抜粋)

<p>将来像</p>	<ul style="list-style-type: none"> • シェアリングやサブスクリプションを通じて、一つのモノを社会全体で長期的に使うような習慣が一般化している • 商品購入時は、ディスプレイ用の商品が数多くならぶ店舗で購入、購入した商品は持ち帰らずに済み、1日以内に自宅に配送される • 商品には取扱説明書が同封されておらず、商品の良さをアピールするための過剰なパッケージもない
<p>今からできること</p>	<p><消費者側> 商品購入時は、モノの廃棄時の手間や生産プロセスも意識して選択する (例：なるべくプラスチック利用を抑えた商品を選択するなど)</p> <p><販売者側> 日用品の原料や生産に関する情報開示</p>
<p>同時解決事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 過剰包装の減少を含む廃棄物量の減少 • 在庫ロスの減少による販売者側の収益の増加
<p>温室効果ガス排出削減効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 製品の過剰な生産と消費にともなうエネルギー消費量の削減

ctural Government

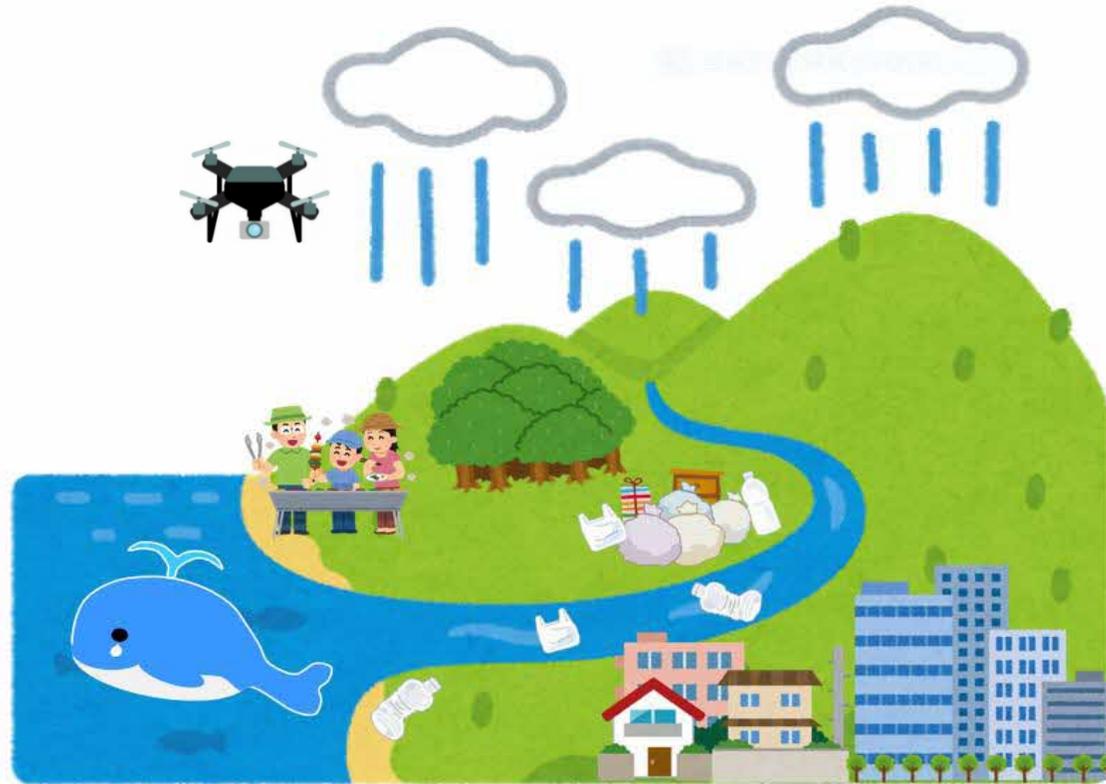


海岸のプラスチックごみの状況①



台風後に漂着した海岸ごみ(藤沢市片瀬東浜 2017(平成29)年10月)
(公財)かながわ海岸美化財団の調査によると、県内の海岸で回収される人工ごみの約6割はプラスチックごみ

海岸のプラスチックごみの状況②



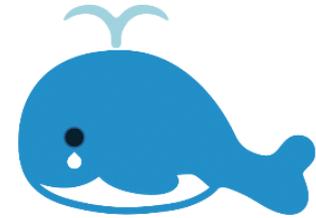
海岸ごみの約7割は大雨等に伴い河川を通じて内陸から流れ出たものと推定されている。

川だけでなく、道路や側溝も海の入り口

プラスチック削減に向けた神奈川県の実践①

2018(平成30)年8月にシロナガスクジラの赤ちゃんが由比ガ浜海岸に漂着(国内初)
⇒胃の中からプラスチック片を発見
翌9月、

「かながわプラスチックゼロ宣言」を発表



かながわプラスチック
ゼロ宣言



漂着したシロナガスクジラの赤ちゃん

(提供: (公財)かながわ海岸美化財団)

プラごみ削減に向けた神奈川県の実施②

県は、SDGsの具体的な取組として2018(平成30)年9月に「かながわプラごみゼロ宣言」を発表し、2020(令和2)年3月に具体的な行動計画である「かながわプラごみゼロ宣言アクションプログラム」を策定しました。

アクションプログラムでは、2030(令和12)年までのできるだけ早期に、リサイクルされずに廃棄されるプラごみゼロを目指すため、①ワンウェイプラの削減、②プラごみの再生利用の推進、③地域清掃活動などのクリーン活動等の拡大に取り組んでいくこととしています。



○ 推進方策

1 ワンウェイプラの削減

- ◇ ワンウェイプラ削減実行委員会の設立
 - ・ 賛同企業等による削減に向けた独自取組
- ◇ ワンウェイプラ削減フォーラムの開催
 - ・ 優良取組事例の発表、市町村・企業等の連携促進

2 プラごみの再生利用の推進

- ◇ ペットボトルの3分別による再生利用の推進
 - ・ 3分別の徹底とモデル事業の実施
- ◇ ペットボトル以外の廃プラスチック類の再生利用の推進
 - ・ 廃棄物自主管理事業による推進

3 クリーン活動の拡大等

- ◇ クリーン活動の拡大
 - ・ 行政、市民団体、企業によるクリーン活動
 - ・ クリーンアクティブ・フォーラムの開催
- ◇ 不法投棄対策の推進
 - ・ ドローンによるスカイパトロール
 - ・ 団体、企業と連携した監視活動

主な取組

プラスチック削減に向けた神奈川県の実施③

ワンウェイプラスチックの削減：プラスチックゼロ宣言賛同企業等の募集

プラスチックゼロに向けた実施の輪を広げ、その実施を広く紹介するため、プラスチックゼロ宣言賛同企業等を募集し、県ホームページで公開登録企業等には、プラスチックゼロに関する情報をメールで提供

【募集対象】

次の要件を満たす企業・団体・学校

- ①「かながわプラスチックゼロ宣言」の趣旨に賛同し、プラスチックゼロに向けた実施をしている、又は実行する
- ②神奈川県内で、事業活動を行っている

【募集期間】 随時募集中

応募用紙はこちらから！⇒ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/p3k/sdgs/sandoukigyoushou.html>

令和4年12月末現在

2126者(企業2005、団体109、学校12)に登録いただいています。



かながわプラスチック
ゼロ宣言

私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。
SDGs 未来都市 神奈川県

賛同企業等を募集します！

プラごみ削減に向けた神奈川県の実践④

2022年(令和4年)3月 LINE公式アカウント「かながわプラごみゼロ情報」を開設

若い世代にも関心を持ってもらいたい！

プラごみゼロに関するお知らせ
クリーン活動情報
イベント情報

を発信！

【サービス内容】

①情報発信

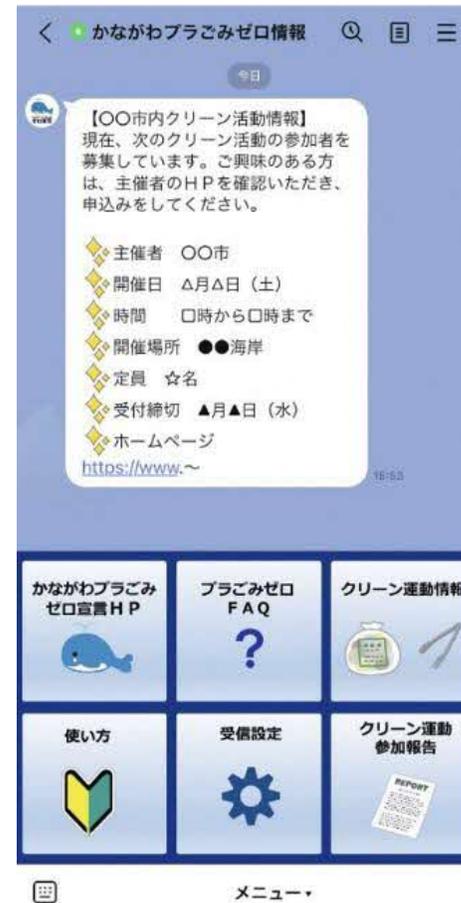
- ・クリーン活動の開催情報
- ・イベント(フォーラムや展示会など)の開催情報
- ・企業等のプラスチック削減の取組事例
- ・プラスチックごみ削減に関する最新動向

②県ウェブサイトおよび関連サイトへのリンク

③事業者のクリーン活動・イベントの主催予定及び開催実績の報告

④県民等のクリーン活動・イベントへの参加実績の報告

⑤よくある質問に関するQ&A(チャットボット)



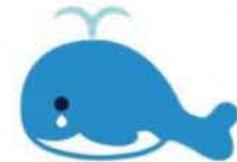
参加実績の報告

クリーン活動やイベントの参加実績を報告することができます。今後、様々な活動に参加し、一定の回数の報告をしていただいた方を対象に、神奈川県から特典を贈呈する予定です。*特典は、抽選等により一部の方にしか贈呈できない場合もあります。

1.入力

2.確認

3.完了



参加したクリーン活動やイベントについて入力してください。

必須 Q1 参加したクリーン活動又はイベント名

* 報告できるイベントは、神奈川県の上で開催予定を掲載しているものに限りです。

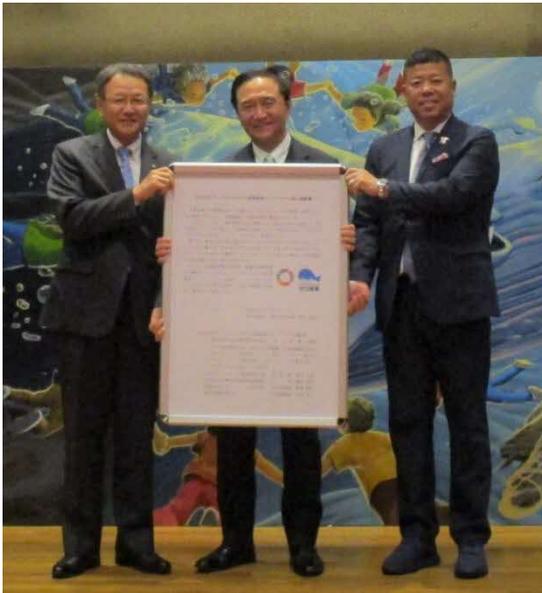
必須 Q2 開催日(参加した日)

プラごみ削減に向けた神奈川県の実践⑤

「かながわペットボトルモデル事業推進コンソーシアム」の取組

コンソーシアム(共同事業体)の設立

県は、ボトルtoボトルの推進のため、2020年3月に清涼飲料業界、小売業界、廃棄物処理業団体等と共に「かながわペットボトルモデル事業推進コンソーシアム」を設立



モデル事業の実施

2022年1月から下記事業者と協働でペットボトルの分別回収の促進を目的とした実証実験を行った。実験の実施場所にペットボトルのボトル、ラベル、キャップの3分別に対応した回収ボックスを設置し、看板等で利用者への3分別の実施を呼びかけるとともに、3分別の実施率を調査した

① 鉄道利用者を対象とした実証実験

小田急電鉄株式会社 本厚木駅 東口改札内



期間: 2022年1月12日～2月28日

不特定多数の利用者を対象にした取組であったが、回収ボックスの工夫や、鉄道広告による周知等の結果、3分別率は、実証実験前の1%未満から、実施期間中は最大32%まで上昇

② 事業所の従業員等を対象とした実証実験

河西工業株式会社 本社地区(寒川町)



期間: 2022年1月24日～2月25日

事業者から従業員に3分別の実施を働きかけた結果、3分別率は、実証実験前の1%未満から、実施期間中は最大96%まで上昇

プラスチック削減に向けた神奈川県の実施⑥

「神奈川県廃棄物の不適正処理の防止等に関する条例」の改正（R4.7.29公布）

【改正の趣旨】

プラスチックごみによる海洋汚染問題への対応を契機として、プラスチック資源の循環推進の重要性がより一層高まっている状況に鑑み、県がプラスチックごみ対策を継続的に推進するための根拠規定や、事業者・県民の責務規定の追加等を行いました。

【主な改正内容】

条例の名称等の見直し	<ul style="list-style-type: none">・ 条例の名称を「神奈川県資源の循環的な利用等の推進、廃棄物の不適正処理の防止等に関する条例」に改正・ 「資源の循環的な利用等の推進」を目的に追加
県の責務の追加	<ul style="list-style-type: none">・ プラスチック資源循環推進等計画の策定（プラスチック資源循環法に基づく国の取組に準じた県としての取組みも規定）・ 事業者、県民及び市町村と連携した美化活動の推進・ 環境教育の推進
事業者・県民の責務の追加	<ul style="list-style-type: none">・ 地域における清掃活動等への協力・ ポイ捨て禁止の対象とするごみの例示を追加（「ペットボトル、食品の容器包装、プラスチック製の買物袋」）・ ごみを捨てる際の散乱防止の規定

Vibrant INOCHI

